

みんなで育てる「たいしの子」vol.8

幼小中一貫教育だより

令和5年度の町立幼稚園の取り組み

非認知能力を伸ばす大人の見とりと声かけを大切に！



5月24日(水)に全園児で散歩遠足に出かけました。行先は近くの公園です。子ども同士の関わりの中で、思いやりのある優しい声かけや、助け合う姿、友だちの遊ぶ様子に興味関心を示し、「一緒にあそぼう」と誘い合う姿など、様々な子どもたちの姿を見ることができました。

(1)公園までの道中では、異年齢で手を繋いで歩くことで、歩く速度を年少の子に合わせたり、少しリードするように引っ張ってあげたり、時には「大丈夫、もうすぐやで」と声をかけてあげたりする姿がありました。手を繋いでもらっている子どもは安心し、声をかけてもらい嬉しそうに、にこっと笑みを返している姿が見られました。

(2)公園では、一人では乗りにくいブランコを後ろからそっと支えてあげたり、相手に合わせゆっくり動かしてあげたり、時には見本となるような乗り方を見せていました。「お兄ちゃんってすごいな」「お姉ちゃんってかっこいいな」というような思いで見ていました。

(3)昼食時には、広げにくいレジャーシートを「手伝ってあげようか」と声をかけたり、「一緒にお弁当食べよ」と誘ったり・・・。声をかけてもらった子どもは、嬉しそうに安心してお弁当を広げていました。

また、おしぶりのタオルを小さく畳んでケースに入れてあげるなど、友だちが困っていることを見つけては、自分から声をかけ、できることから手伝いをする姿を見ることができました。

散歩遠足時に限らず、普段の園生活の中で子どもたちが何気なくしている姿を、職員（大人）が意識をもって「〇〇さんってやさしいね。友だち喜んでいるね。」や「〇〇さんいいことしてるね。」「手伝えるってすごいね。」など子どもの素敵なお言動を見とり、すぐに子どもに伝えて意識づけることこそが、「非認知能力の伸長」につながるものと考えます。

町立幼稚園では、日々、全職員で保育活動の振り返りを行い、子どもの現状を適切に見とり、職員間で意見を交わし合います。職員一人ひとりが子どもたちと関わることで、幾通りもの子どもの姿や行動の理由・背景などを見とることができ、子ども理解をできるように努めています。「非認知能力の伸長」をめざし、職員のレベルアップも積極的に行ってています。

今後も、町立幼稚園では、子どもが考え方行動しようとしている姿を丁寧に見とり、意識づけにつなげる取り組みを町立幼稚園では大切にしていきます。

教えて！とくどめ先生！

「子どもたちの成長や変容をどのように見っていくのか。」

前号では大人が、日常的に非認知能力を意識した働きかけをすることで、子どもたちの意識づけにつながるというお話をしました。今月号では、子どもたちの成長や変容は、どのように見とすべきかについてお話ししていきます。この「見とる」という言葉は、教育や保育の現場でよく用いられる言葉です。目の前の子どもたちの姿や行動を「見つけてとり上げる」ということです。医療現場で用いられる「看取る」とは違いますので、ご注意ください。

この見とりは、子どもたちの非認知能力の向上にとって欠かせないものです。見とるためにには、意識をしてその行動や変容を見ていかなければなりません。どう意識すればいいかと言いますと、非認知能力は3つのグループに分けられると言いました。それは、自分と向き合う・自分を高める・相手とつながるでしたね。この3つのグループのレンズをとおして子どもたちを捉えていくということです。ただぼんやりと見るのではなく、大人も非認知能力を意識するということです。そうすると、「今のあの子の行動は、友達の気持ちに寄り添った声かけをしているな」であったり「いつもなら、すぐに投げ出してしまうところを、グッとこらえて課題にむきあっているな」という様に、具体的な子どもの姿を非認知能力で価値づけることができます。

さらにポイントになってくるのは、プロセスの中で見としていくということです。結果で見とってしまうと、「できた」か「できなかった」かの2択になってしまいます。できたときは喜び、できなかったときは励ます、これ以上の共有が難しいです。一方、そこに達するまでのプロセスに注目すると、「それまで何をどうやってきたか」に重きを置くことができ、様々な角度から価値づけをし、捉えることができます。まさに、プロセスは多義的だからこそ、見とりポイントがたくさんあるということです。つまり、子どもたちが何らかの目標に向かうプロセスの中にこそ、子どもたちが非認知能力を発揮した素敵なお言動がたくさんあって、それを見とることが子どもの意識づけの第一歩ということになるのです。

教えて！とくどめ先生のコーナー次回は、「見とりの次にすること・・・」です。お楽しみに！

◆問合せ 教育総務課 ☎98-5533